

2014 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—経済学部—

経済学部長 杉本 義行

今回、経済学部開設科目（法学関連科目を除く）で前期開講科目のうち、アンケート実施が義務付けられた科目は、実施が任意であるゼミ・演習、受講者 10 名未満の科目、通年科目を除いた 27 科目であり、実施率は 100%でした。また、実施が任意の科目のうちゼミ・演習、受講者 10 名未満については 18 目のうち 12 科目が実施（実施率 66.7%）され、つごう 39 科目について、延べ 1, 860 名の経済学部生のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。また、アンケートの実施に対しての貴重な授業時間を割いてご協力頂いた経済学部専任・非常勤の先生方にも深く感謝いたします。

さて、前回同様、このコメントを作成するにあたり、学部全体の集計結果はもちろんのこと、アンケートが実施された 39 科目すべてについて科目ごとの個別集計結果ならびに記述による「授業に対するコメント」に目を通したことを、まずご報告いたします。なお、個別科目の集計結果は自由記述欄のコメントを含めて Campus Square for Web から自由に閲覧することが可能です。是非、積極的に活用していただきたいと思えます。

授業の満足度を示す「総合評価」の学部平均は、5 段階評価で 4.14（昨年度 4.07）と昨年度にひきつづき向上しました。また個別科目で見ると、4.5 以上の高い評価の科目も散見され、概ね良好であったと思われます。

設問ごとの結果と「総合評価」との相関係数をみると、これまで相関係数が一番高かった「この分野への関心と学力が得られた」という項目は、昨年度の 0.79⇒0.61 と値が大幅に低下して 2 位となり、それにかわって「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」（0.63）、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」（0.63）が 1 位となりました。そのほか、「教員は授業時間を有効に利用した」（0.59）「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」（0.58）、「授業への教員の熱意を感じた」（0.58）、「教員の板書、スライド等の文字は読みやすかったか」（0.56）が重要なファクターであることが示唆されています。他方、例年、相関の高かった「遅刻」（0.15）、「話し方」（0.15）と相関係数が低いのは意外でしたが、これらについて全般的に改善が進んでいることを示唆しているのかもしれませんが。

私の理解では、＜授業の内容の面白さ＞とそれをくどれだけ理解できるか＞がみなさんの評価ポイントではないかと考えます。今回、授業レベルの他、授業参加を促すという授業方法が満足度との相関で高くでたことは、学生のみなさんと教員との双方向型の授業方法であるアクティブラーニングの導入を一層進めていく必要を示唆しているように思われます。

教室の環境、すなわち私語の多さ等は依然として評価項目として重要視されております。各科目へのコメントにも、これまで同様に、「私語に対して注意がされていない」「私語で集中できない」などの指摘がいくつかあり、ひきつづき良好な学習環境の確保に教員がこまめに対応していかなければなりません。

今回、指摘された点を真摯に受け止め、組織として授業の一層の質向上につとめたいと考えます。